

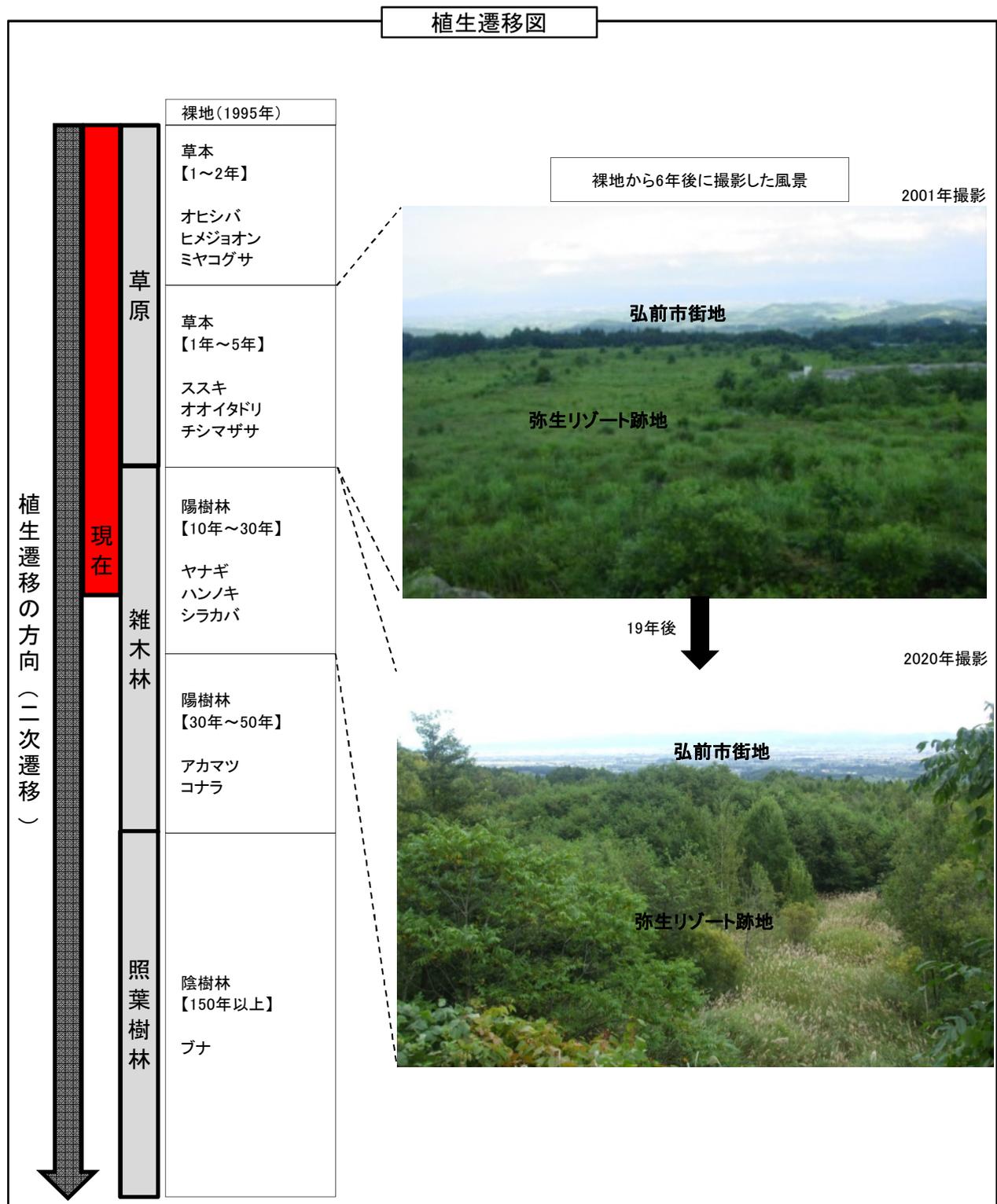
弥生リゾート跡地の自然回帰

1. 植生遷移

ある場所に生息する生物種が時間とともに変化していく過程のことを遷移といい、植物の移り変わりに着目した場合を植生遷移といいます。

一次遷移とは、火山噴火後の溶岩など、土壌が形成されておらず、生物も生息していない場所から始まるものをいい、二次遷移とは、森林伐採の跡地など、すでに土壌が形成されており、土壌中に種子・地下茎・土壌動物などの生物を含む場所から始まるものをいいます。

このことから、弥生リゾート跡地については、二次遷移となります。



2. 自然回帰を見守る活動

「親子で自然観察会」や「セミナーの開催」については、弥生スキー場跡地問題を考える市民ネットワークさんのご協力のもと、行っています。

スキー場跡地に残った構造物
(スキーセンターは撤去済)

2001年7月



リゾート跡地に残った構造物
(排水溝を機械で撤去している様子)

2016年5月



スキーロープ塔跡
(スキー場が営業していた当時のまま、現在も残っている)

2018年7月



セミナーの開催
(「弥生の森づくり」をテーマに講演している様子)

2018年6月



親子で自然観察会(夏)
(沢の石をよけて生き物を探している様子)

2018年7月



親子で自然観察会(夏)
(沢で見つけた体長5cmほどのニホンザリガニの様子)

2018年7月



※絶滅危惧 I I 類(VU)とは、絶滅の危険が増大している種

親子で自然観察会(秋)
(熱心に講師の先生のお話を聞く子供)

2020年9月



親子で自然観察会(秋)
(スキー場跡地を歩き自然の様子を観察する参加者)

2020年9月



弥生に生息する生き物
(ハッチョウトンボ)

2012年7月



弥生に生息する植物
(ヒツパイチヤクソウ)

2018年7月



危険箇所のパトロール
(集水塔に異常がないか安全確認している様子)

2017年11月



危険箇所のパトロール
(不法に投棄されたタイヤの様子)

2015年5月

